

冬の終わりを告げる春一番の嵐が続く中でこの編集後記を書いています。冬の終わりと共に 30 年と数か月続いた平成も終わりを告げることとなりますが、本号は新元号下での第一号となります。日本内視鏡外科学会雑誌は 1996 年 (平成 8 年) 2 月に創刊されました。フランスの産婦人科医 Mouret が最初のビデオスコープ下による胆嚢摘出術を成功させた 9 年後であり腹腔鏡手術があらゆる分野で挑戦的な医療であった時代でした。その後、ビデオや鉗子、エネルギーデバイス等の目覚ましい進歩に支えられて、今日では私が専門としている肝胆膵領域も含めたほぼ全ての領域で腹腔鏡・胸腔鏡を用いた手術が日常的に行われるようになりました。

しかしながら、その間に起きた腹腔鏡関連の医療事故が社会問題になったことを忘れてはなりません。この反省から若林剛先生、金子弘真先生らが中心となり肝臓内視鏡外科研究会で消化器外科領域では最初の前向きレジストリーが開始され、これに倣って腹腔鏡下の瘻切除術に関しても同様のレジストリーが整備されました。結果的にこのようなシステムが評価されて、肝・膵の高難度手術に関しても腹腔鏡手術が保険収載されることとなったのは周知のことと思います。このような歴史的背景を思いながら本号を見直してみますと、単純に新たな術式の発表等でなく、複雑な病態や稀な状況への腹腔鏡手技の応用法といった論文が主であり、この分野が既に成熟していることを改めて感じさせる内容になっています。

ところで、昨年 4 月の診療報酬改定で多くのロボット手術が一気に保険収載されました。前向き登録が条件とされていますが、肝臓内視鏡外科に始まったレジストリー方式が多くの方面に安心を与えることでこのような保険改定が実現されたものと思っています。最初にレジストリーを構築された先生方に感謝を申し上げたいと思います。施行される先生方におかれましては、このような歴史的背景を理解されて、漏れない登録と、新たな知見の本誌への投稿をお願い申し上げたいと思います。

ロボット手術関連の論文の投稿も少しずつ増えてきており、今後は本誌上でもロボット手術が主流となることが予想されます。新元号下の外科は内視鏡手術からロボット手術への新たな変革の時代になるのですが、本誌もロボット時代の発展を支える一助を果せたらと思います。読者諸先生方の投稿をお待ちしております。

(中村雅史)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 24 巻 第 3 号) 2019 年 5 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1 部) 定価: 本体 2,800 円 + 税

2019 年 年間購読料: 16,380 円 + 税 * 学会員は学会ホームページから閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 渡邊昌彦)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses @ convention.co.jp (担当: 池田, 小倉)

http://www.jses.or.jp

発売: (株)医学書院 (代表: 金原 俊) (本誌担当: 水野, 安部)

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses @ igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

電子出版コード 260F2600024003000000

- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は日本内視鏡外科学会が保有します。
- ・本誌を無断で複製する行為は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的 (診療、研究活動を含む) で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- ・JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株) 出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●症例報告

腎移植後患者に腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を施行した 2 例松山温子・他 浜松医科大学附属病院第一外科診療群
副肝管に胆嚢管が合流する胆管走行異常を呈した胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出

術を施行した 1 例高橋澄加・他 総合東京病院外科
ICG 蛍光法を用いて腹腔鏡下肝嚢胞天蓋切除術を施行した症候性巨大肝嚢胞

の 1 例吉田祐一・他 市立函館病院消化器外科
IPOM Plus 法による腹腔鏡手術を施行した Spigel ヘルニアの 1 例野々垣郁絵・他 愛知厚生連渥美病院外科
完全腹腔鏡下に手術しえた自転車ハンドル外傷による十二指腸穿孔の 1 例藤井善章・他 蒲郡市民病院外科
転移性卵巣癌と重複癌との鑑別に審査腹腔鏡下手術における腹膜播種病変の生

検が有用であった 1 例直居裕和・他 市立貝塚病院産婦人科
成人特発性胃軸捻転症に対して腹腔鏡下胃固定術を施行した 1 例柳橋浩男 千葉県がんセンター肝胆膵外科
他、数編の掲載を予定。但し誌面の都合により変更がございます。ご了承ください。